

執筆者一覧

奥坊 由起子

立命館大学大学院先端総合学術研究科表象領域一貫制博士課程在学中。

主要業績:「エドワード・エルガーをめぐる言説——1920年から1934年の『ミュージカル・タイムズ』を中心に——」、『大阪音楽大学研究紀要』第53巻、2015年。

「レイフ・ヴォーン・ウィリアムズの国民音楽観——フォークソングによるイングランド国民性の表出——」、立命館大学大学院先端総合学術研究科『Core Ethics』第12巻、2016年。

「イングランド音楽におけるフォークソング観——〈田舎〉観にみる多義性——」、『民族藝術』第33号、2017年。

田邊 健太郎

立命館大学非常勤講師(2017年4月より)、立命館大学生存学研究センター客員研究員。

立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫制博士課程修了、博士(学術)。

主要業績:「「指し示されたタイプ」的存在者としての音楽作品——ジェラルド・レヴィンソンの音楽作品の存在論に関する一考察——」、『美学』第64巻1号、2013年。

(項目執筆)「音楽作品の存在論」、『分析美学は加速する:美と芸術の哲学を駆けめぐるブックマップ最新版』、紀伊國屋書店新宿南店、2015年。

外山 悠

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻博士後期課程在学中、同志社大学人文科学研究so嘱託研究員(社外)。

主要業績:「斎藤百合子『日常性の美学』における「道徳的美的判断」に関する一考察——フランシス・ハチスン『美と徳の観念の起原』を比較の対象として——」、『美学芸術学』第32号、2017年。

船木 理悠

同志社大学研究開発推進機構及び文学部特別任用助手、京都造形芸術大学通信教育部非常勤講師(2017年4月より)、同志社大学人文科学研究so兼担研究員。

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻博士後期課程修了、博士(芸術学)。

主要業績:「G.ブルレの『音楽的時間』における「音楽的リズム」とテンポ」、『音楽学』第60巻1号、2014年。

「G・ブルレの音楽美学史的位置づけ——E・ハンスリックとの関係を通じて——」、『美学』第66巻2号、2015年。

山口 隆太郎

立命館大学大学院先端総合学術研究科表象領域一貫制博士課程在学中。

主要業績:「アルフレッド・シュッツの音楽論における音楽経験——時間概念を中心に」、『文芸学研究』20巻、2016年。